



オープニングセレモニーは北鬼江獅子舞



招待選手も親子でジョギング



にこやかに10kmコース



道下公民館だより

No. 85 号

発行者 大崎 勇
編集者 編集委員会
TEL 0765-22-2285
ホームページアドレス
<http://www.nice-tv.jp/~michi-k/>



4月25日(日) 晴天の下、勇壮な北鬼江獅子舞がオープニングを飾り、第30回魚津しんきろうマラソンが開幕しました。今回からスタート地点が、従来の水族館から、ありそドームに変更されました。当日は、四千名を超えるランナーと、地元道下地区から八十名近いボランティアが周辺警備に協力しました。また、事前回覧板も奏効してたくさんの方々が沿道から熱い声援を送り、大会を大いに盛り上げていました。

平成22年度 道下地区敬老会

平成22年6月6日(日)

受付：午前9:15～
開演：午前9:45
会場：道下小学校体育館

参加者募集

第5回 ふるさと探訪ウォーク (のろしまつりの里を訪ねて)

平成22年6月15日(火)

集合：午前 9:00
道下公民館
出発：午前 9:30

※申込みは道下公民館まで
TEL・FAX:22-2285

平成二十一年度 コミュニティバス 収支目標達成

経田道下ルート

運行初年度の平成20年度は一日平均51.3人だった乗車人数が、平成21年度は60.8人まで増え、当初の目標としていた単年度決算の黒字達成を果たしました。

2月21日には経田道下ルートの停留所に金属製のバス停標識が設置がされ、写真のようにバス停の名称を表示する丸い看板とその下に四角い案内板がついています。案内板には時刻表や路線図などが表示されますので、あらかじめ、バスの時刻を確認していただく



でもご利用しやすいようになりました。経田道下ルートは、経田公民館から道下公民館を経由して魚津駅までの間を、日曜祝日を除く週6日運行しています。運行路線図や時刻表は、公民館にもあります。これからの地域の皆さんのため、安全で便利なバス運行を目指しますのぞ宜しく願います。

地 区 名	配布枚数	区 長	文化祭推進委員	体育推進委員	防 犯 組 合	交通センター委員	環境保健衛生推進員
新役員のみなさま よろしくお願ひします！		(会 長) 大 崎 悟 (副会長兼会計) 小 畠 範 文 (監 事) 広 田 貢 (荒磯区)	道下ふれあい文化祭 11/13(土)・14(日) みなさまの作品出品をお待ちしています	体育振興会役員 (会 長) 松 本 明 夫 (副会長) 寺 田 行 男 山口 美和子 (事務局) 寺 田 淑 人 小 黒 健 太郎 狐 塚 智 美	(組合長) 七 沢 秋 政 (副組合長) 木 内 清 光 (書記) 中 村 良 夫 (会計) 虎 谷 廂 (会計監査) 浦 田 富 治	(支部長) 吉 崎 実 (副支部長) 虎 谷 廂 古 金 一 実 小 山 原 日 雄 大 室 口 出 輝 (高齢者部会長) 山 本 明 正 (母の会) 吉 田 千恵子	(会 長) 松 岡 算 (副会長) 浅 生 修 (会 計) 窪 田 幸 二 (監 事) 山 田 修 一
岡 仏 田	150	榎 木 孝 司	平 沢 玲 奈 放 生 久 恵	金 山 憲 太 石 倉 健 郎 鍛 治 順 広 吾	森 野 繁	美 谷 光 隆	種 田 淳 一
岡仏田 2	91	富 居 陸 男		中 川 寛 淑 大 門 法 一	高 畠 政 晴	川 上 克 己	辻 野 正 樹
仏 田	160	竹 高 弘	竹 高 弘	横 田 稔	大 島 文 雄	高 林 義 正	岡 田 邦 幸
仏 又	23	吉 田 金 秋	吉 田 金 秋	吉 田 金 秋	吉 田 金 秋	吉 田 金 秋	吉 田 金 秋
青 島 1	147	田 村 公 人	田 村 公 人	伊 藤 幸 信 辻 雅 弘	七 沢 秋 政 田 村 公 人	辻 直 樹 伊 藤 豊 広	松 岡 算 辻 義 春
青 島 2	73	加 藤 克 則	加 藤 克 則	田 村 勝 川 崎 聡	大 坪 裕 也	中 川 孝	佐 生 美和子
青 島 3	141	大 崎 悟	大 崎 悟 魚 住 明 峰	田 中 謙 次 松 野 重 郎	北 川 敏 彦 佐 竹 昌 子	角 川 菊 夫 金三津 弘	魚 住 明 峰 奥 川 由美子
青島社宅	5	湊 屋 俊 介	高 橋 裕 幸	湊 屋 俊 介	藤 波 龍 也	田 中 亮	湊 屋 俊 介
青島新町	31	寺 井 秀 雄	寺 井 秀 雄	宮 崎 人 志 花 房 秀 之	寺 井 秀 雄	寺 井 秀 雄	浅 生 修
友 栄	40	川 端 和 明		小 坂 勝 一 中 島 井 下 健 三 木 大 畑 勝 石 長 谷 原 正 窪 川 田 義 嗣 守 二	新 村 千鶴子	太 田 鋭 次	古 川 真由美
北 中	43	浜 藤 勝	寺 田 文 雄 東 城 修 保 一	三 木 大 畑 勝 石 長 谷 原 正 窪 川 田 義 嗣 守 二	山 田 義 雄	大 崎 政 春	纓 坂 謙 司
北 中 新	20	石 井 利 和	石 井 利 和	石 井 利 和	石 崎 健 男 眼 龍 捷	林 秋 光 滝 川 之 夫	藤 原 雪 枝
下 道	45	早 勢 雅 己	小 路 幸 喜	荻 野 仁 司	小 路 幸 喜	寺 西 良 一	窪 田 孝 二
荒 磯	45	広 田 貢	小 林 節 子	中 村 雅 美 福 島 智 美 松 野 龍 一 本 吉 岡 省 三	三 輪 久 子	斉 藤 将 司	高 島 明 夫
高 畠	41	河 岸 清 司	三 村 ひさ子	松 野 吉 岡 省 三	池原谷 道 夫	長 井 悦 子	高 城 修 身
北鬼江 1	111	浦 辺 弘	高 瀬 進	谷 島 達 也	古 川 勝 義 佐 藤 祥	浦 辺 弘	浦 辺 弘
北鬼江 2	118	山 田 修 一	山 田 修 一	大 崎 悠 矢		山 田 修 一	山 田 修 一
北鬼江 3	150	大 崎 隆	川 戸 慎 二	広 浜 秀 和		川 戸 慎 二	大 崎 隆
釈 迦 堂	63	美 浪 清	中 川 勝 司 米 山 弘	元 古 野 岩 男 森 川 内 雅 一 進 森 一 雅 基	森 内 辰 男 森 内 謙 一	森 内 光 雄	美 浪 清
本 新	162	小 畠 範 文	寺 崎 一 郎	大 加 崎 藤 一 竹 山 信 一 吉 田 毅	虎 谷 廂 加 藤 敏 明 山 岸 義 三 矢 野 富 美子	虎 谷 廂	加 藤 昇
磯 路	36	金 和 勝 明		竹 山 信 一 吉 田 毅	山 岸 義 三 矢 野 富 美子	飛 驒 国 夫 野 家 明 夫	藤 井 眞知代
小川田住宅	10	石 崎 誠	水 口 勇	秀 島 朝 子	浦 波 久 雄	本 田 陽 子	飯 島 英 一
道下住宅	40	木 下 正 子		山 崎 五百子	山 下 章 夫 片 岡 郁	山 下 章 夫 片 岡 郁	成 瀬 佐 文
全 2 3 区	1745						

平成22年度

各種団体 役員・地区役員

● 道下婦人会

会 長	青 山 芳 枝
副 会 長	山 城 美和子 蔵 谷 初 乃 小 森 幸 子
書 記	石 崎 千鶴子 金三津 千恵子
会 計	吉 田 千恵子 経 田 喜 子
監 査	谷 島 紀 子 川 岸 律 子
女性セミナー	岡 崎 香 竹 三枝子 長谷川 真理子 金三津 千恵子 山 城 美和子 吉 田 千恵子 河 崎 洋 子

道下婦人会では、年間を通して会員を募集しています。
どなたでも誘い合って参加してください。

連絡先 090-6275-5364
(青山)

● 道下老人クラブ連合会

会 長	山 本 明 正
副 会 長	大 崎 勉 男 金 物 正 男
会 計	浦 田 富 治 大 浦 龍 雄 大 浦 員 子 横 田 葉 子
女性部委員	中 川 幸 枝 大 江 梅 子

● 地 区 役 員

青島千歳会	金 物 正 男 山 本 博 久
北鬼江福寿会	山 本 明 正 古 川 博 隆 川 岸 幸 子 松 本 幸 子
釈迦堂千歳会	大 浦 龍 雄 森 内 貞 男 横 田 葉 子
本新千歳会	大 崎 勉 古 川 清 作
青島3区青悠会	浦 田 富 治 加 藤 勲

● 民生委員児童委員協議会

委 員	担 当
山 田 夏 子 (会 長)	北鬼江2区
田 中 源 三	岡 仏 田 区 岡 仏 田 2 区
室 口 日出輝	仏 田 区 磯 路 区 仏 又 区 小川田住宅区 下 道 区
中 川 美恵子	青 島 1 区 青 島 2 区 青 島 3 区 青島社宅区 青島新町区
田 村 紀 明	北 中 区 友栄住宅区 北 中 新 区 荒 磯 区
浦 親 利	高 畠 区 北鬼江1区 北鬼江3区 道下住宅区
大 崎 政 春	釈 迦 堂 区 本 新 区
山 本 明 正	道下主任児童委員
大 崎 和 美	
森 内 貞 男	
寺 崎 義 弘	
長谷川 真理子	

● 地区社会福祉協議会

会 長	慶 伊 敏 雄
副 会 長	古 川 勲 山 田 夏 子
事 務 局	田 村 紀 明
会 計	田 中 源 三
常任理事	山 本 明 正 大 崎 勉 大 井 田 博 隆 金 坂 真智子 室 口 日出輝 蔵 谷 初 乃 石 川 登美子 青 山 芳 枝
理 事	大 崎 悟 大 松 岡 算 七 沢 秋 政 吉 崎 実 橋 爪 晴 子 小 畠 範 文 金 物 正 男 山 城 美和子 笠 間 正 時 吉 田 千恵子 寺 崎 義 弘 浦 親 利 森 内 貞 男 中 川 美恵子 大 崎 政 春 大 崎 和 美 長谷川 真理子 山 本 たき子 山 小 路 典 明 米 山 明 美
監 事	木 下 英 一 大 崎 勇
参 与	大 崎 春 美 山 浦

住宅用火災警報器 設置のお願い

住宅用火災警報器の設置状況（平成21年12月現在）は、37.5%（魚津市全体では63%）と、たいへん低い設置率でした。

住宅火災の死者を減らす目的として、平成18年6月1日より新築住宅の火災警報器の設置が義務付け、平成19年6月1日までは、既存住宅の設置が義務付けられました。

また、未設置の既存住宅は、火災報器の設置をお願いします。

今年度も道下地区の火災及び防災に対する認識を高めて行きたいと思っておりますので、よろしくご協力の程お願いいたします。

消防11分団 分団長 西野 宗司

● 消防第11分団役員

分 団 長	西 野 宗 司
副分団長	加 藤 康 彦
部 長	川 岸 久 正 加 本 元 久 西 尾 本 博 幸 山 崎 谷 森 利 隆 小 寺 虎 金 山 久 浅 澤 長 谷 川
班 長	寺 崎 義 弘 大 崎 政 春 大 崎 和 美 森 内 貞 男 寺 崎 義 弘 長谷川 真理子

★ 公民館職員

館 長 大 崎 勇
主 事 木 下 英 暖
書 記 米 山 明 美
指 導 員 青 山 芳 枝
書 記 代 替 虎 谷 鈴 子

★ 運営審議委員（順不同）

◎ 本 元 義 明 有 識 者
○ 保 里 昭 男 有 識 者
吉 崎 実 道下振興協会理事長
橋本浩八郎 有 識 者
小 森 幸 子 有 識 者

新 大 崎 春 美 道下小学校長
新 大 崎 悟 道下区長
慶 伊 敏 雄 地区社会福祉協議会長
新 大 崎 一 広 道下小学校育成会長
◎ 会 長 ○ 副 会 長

平成二十二年度
道下公民館役員

道下公民館 平成21年度決算・平成22年度予算

収入の部

(単位：円)

	項 目	21年度決算	22年度予算
国県 託金	放課後子ども教室	500,000	500,000
	小 計	500,000	500,000
市 交 付 金	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	公 民 館 教 室	170,000	170,000
	地域異世代交流事業	220,000	220,000
	共 催 事 業 費	585,000	581,000
	書記・指導員活動費	20,000	20,000
	小 計	1,075,000	1,071,000
自 主 財 源	住 民 負 担 金	1,519,927	1,526,000
	道下振興協会助成金	400,000	400,000
	広 告 料	559,000	400,000
	雑 収 入	40,359	236,148
	繰 越 金	327,862	621,652
	小 計	2,847,148	3,183,800
	合 計	4,422,148	4,754,800

創立60周年(平成24年)記念事業積立金

平成20年度積立金	100,000
改築20周年事業積立残金	95,861
平成21年度積立金	100,000
平成22年度積立金	100,000
計	395,861

館内女子トイレが
全て洋式化
2階・3階の女子ト
イレの和式便器が、全
て洋式に変わりました。
かねてより利用者(特
に高齢者や児童)から
のトイレの洋式化を
望む声が強く、このた
びようやく設置する
ことができました。

この工事に関しては、
濱田長蔵様(北中区)、
谷明夫様(北中区)、中
川勝司様(釈迦堂区)、
桶田横一様(青島一区)
にたいへんご尽力い
ただきました。ありが
うございました。

支出の部

(単位：円)

	項 目	21年度決算	22年度予算
事 業 費	放課後子ども教室	500,000	500,000
	地域異世代交流事業	220,000	220,000
	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	女 性 セ ミ ナ ー	150,000	150,000
	ふ れ あ い 学 級	20,000	20,000
	団 体 助 成 金	300,000	300,000
	敬 老 会 費	408,315	420,000
	体 育 祭 費	688,765	700,000
	文 化 祭 費	129,183	550,000
	芸能・スポーツ活動費	119,911	120,000
	広 報 活 動 費	200,340	220,000
	研 修 活 動 費	120,256	180,000
	小 計	2,936,770	3,460,000
運 営 費	会 議 費	39,000	70,000
	事 務 費	34,760	35,000
	通 信 費	16,000	20,000
	備 品 費	62,525	180,000
	修 繕 費	43,700	250,000
	光 熱 費	45,037	50,000
	消 耗 品 費	245,495	265,000
	負 担 金	62,000	65,000
	保 険 料	129,800	129,800
	書記・指導員活動費	20,000	20,000
	雑 費	65,419	70,000
	書記指導員勤続謝金積立金	0	20,000
	創立60周年事業積立	100,000	100,000
	予 備 費	0	20,000
	小 計	863,736	1,294,800
	合 計	3,800,506	4,754,800

平成22年度 6月～12月
主な行事予定

6月6日(日)

地区敬老会

6月15日(火)

ふるさと探訪ウォーク5
(のろしまつりの里を訪ねて)

6月27日(日)

ソフトボール大会

8月8日(日)

蝶六街流し
(東中グラウンド)

9月12日(日)

道下住民ゴルフ秋季大会
(国際カントリー)

9月18日(土)

有峰森林文化村
日帰り語り部講

10月3日(日)

地区体育祭

11月13日(土)・14日(日)

道下ふれあい文化祭

11月28日(日)

ビーチボール大会

(道下小学校体育館)

12月18日(土)

2010年道下もちつき会

12月23日(祝)

サンタと作ろう
X'masケーキ

たくさんの方のみなさんの
ご参加をお待ちしています

道下公民館
利用サークル

＊健康体操(命の貯蓄体操)

月・金 10時

＊茶道(茶楽利の会)

月(月2) 9時30分

＊詩吟

月 10時

＊フラダンス

(ウキウキフラサークル)

火 13時30分

＊よさこい(いぶき)

火 19時30分

＊剣詩舞(渋川流剣真会)

水 10時

＊絵手紙(色いろ)

水 13時30分

＊蜃気楼節保存会

水(月2) 19時30分

木 10時

＊社交ダンス(道下教室)

木(月2) 13時30分

＊道下の歴史を語る会

月1 19時

＊道下サークル活動

(小・中学生)

土(月1) 9時30分

※新しい活動(生涯学習)
の公民館利用については、
場所や時間などを、公
民館へお問い合わせく
ださい。

道下の歴史を語る会

道下の川紀行

「道下の歴史を語る会」

の一月定例会で、細田委員から「片貝川と道下」と題して提案発表がありました。

それによると、昔、片貝川の本流は、北鬼江を流れる中川用水から仏田に至る間にあったという。氏は、それを証明する資料として四点挙げています。

①富山湾の川尻に大きな玉石があるのは早月川尻と道下海岸だけで、旧片貝川が道下の海岸に流れ出ていたことを示す証の一つ。

また、北鬼江海岸にはかつて砂丘があり、排出土砂の多い河川の両側にそれが発達することから考えると、近くに片貝川の河口があったことを示す。

②藩政末期に浜石田村肝煎が生地の十村に提出した片貝川掘削申請書には「片貝川は元天神橋畔の立石部落から青島部落へ流れ

込んでいたが、嘉暦二年（一二三七）大洪水により経田・石田境を流れるようになった。…」とある。

③昭和七年、経田村長が県知事宛に提出した片貝川改修工事に関する陳情書には「片貝川は其の水源地片貝谷村より西北の中央を射し、直線に加積村並に道下村の中部を貫通し、其の下流を道下村北鬼江浦海岸へ流入するを該川の地形上最も至當とするに…」と述べ、旧の片貝川の川筋に河川改修するよう要望している。

④国道八号線上における片貝川扇状地の断面図を見ると、建石勝神社（吉島用水）から中川用水の間五百メートルが最も高い。しかもこの両用水は平行して一直線に海まで続いている。即ち、昔、この線上に片貝川が流れ、大量の土砂が堆積した結果、最も高い尾根のようになったものと考えられる。氏はさらに続けて、片貝川

は急流であり洪水も多く、その流れも自由奔放で多くの川筋をつくり、耕土も砂質土で古来より人の住みにくい環境にあったという。ただ扇状地に網目状の細流が多数あったということは、堆積土の微高地も方々にあったということであり、そこを手掛かりにして周辺の土地の開墾、開拓に着手してきたのが道下村の歴史であると述べています。

この提案を受けて、会では村の開拓に大きな役割を果たしてきた古い川を現地調査しようということになり、四月十九日の午後、全員で自転車

に乗って出発しました。

手掛かりにしたのは、明治時代の下新川郡史稿に出てくる「赤川、田畑川、尾川、針木川、清水又川」などの記述や魚津市立図書館所蔵江戸時代の絵図「鰯網等目当山御絵図浦役所」の道下付近の川（田畑川、下り口ノ川、走り下りノ川、清水又川とある）。

南から順に、まず、下新川郡史稿の赤川。中村蒲鉾店（昔は赤川湯という銭湯）の横を流れている川。今はカーバイド工場の敷地に突き当たって南に折れているが、加藤さんの話では港町の方に真っ直ぐに流れていて水車小屋もあったそうである。

次が絵図と郡史稿に共通な田畑川。切支丹塚伝説縁の川。カーバイド工場の引き込み線に沿って流れ工場敷地内に流れ込んでいる川か。旧漁港東の端に流れ出ていた川で、今は暗渠になって海の駅の東側の突堤に流れ出る。

絵図の下り口ノ川。恐らくカーバイド工場の北側に沿って流れている川で、郡史稿の

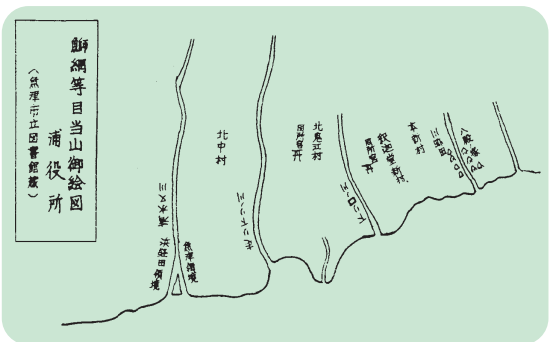
尾川のことであろう。

絵図の走り下りノ川。北鬼江と北中村を流れている川だから今のの中川用水か。郡史稿の針木川のことであろう。

絵図・郡史稿共通の清水又川。上流に高島村道番人とあるので、東部中学校横から流れ出てくる「シヨウコロウ」の川、通称黒部川のことか。

この他、経田との境には小川があり、小さな御堂がある。昔は人里離れた寂しい場所だったそうである。

（文責本元）



参加者募集!!

有峰森林文化村 日帰り語り部講

先着25名

期日:平成22年 9月18日(土)

日 程

8:30 道下公民館出発	13:30 永遠の木 (仲睦ましブナとミズナラの木を見学)
9:20 立山あるべん村 (トイレ休憩)	13:50 有峰ハウス (県産材を豊富に使った木の香りが心地よい建物見学)
10:00 有峰ハウス駐車場 (トイレ休憩)	14:20 有峰ビジターセンター (歴史・文化・自然観賞、土産、アンケート、トイレ休憩)
10:20 有峰湖展望台 (有峰湖 周辺一望)	14:40 有峰ハウス駐車場出発
10:40 冷タ谷遊歩道 (明るい森の散策、森林浴)	15:20 立山あるべん村 (トイレ休憩)
12:00 冷タ谷キャンプ場 (昼食(各自弁当持参)、有峰湖畔散策、音楽、トイレ休憩)	16:20 道下公民館到着

その他の見どころ、施設

猪根山遊歩道、折立遊歩道、東西半島遊歩道、砥谷遊歩道、樹木園、真川、祐延湖、大多和峠、北陸電力有峰記念館、芝生広場、フィールドアスレチック、テニスコート、バーベキュー広場



定 員 25名

参加料 2,000円(バス代金)

申込み 道下公民館 (TEL・FAX22-2285)

※定員になり次第締切ります。

道下の旗 デザイン募集

1. 応募資格

道下地区住民または以前道下地区に居住したことがある方

2. 応募方法

- 道下地区をイメージ・表現した、道下地区の旗にふさわしいデザインを募集します。(縦横比2:3)
- 作品は、はがき又ははがきサイズの用紙を使用して作成してください。(デザインした用紙をはがきに貼ってもかまいません)
- はがきは、縦に使用し、上部の3分の2程度のデザインを、その下にそのデザインの説明を記入してください。
- 筆記用具は自由です。
- 使用出来る色は3色以内とし、グラデーション(※)は不可とします。
- ※グラデーションとは、色の濃淡をすこしずつ変化させる手法のことをいいます。
- 応募点数に関する制限はありませんが、はがき等1枚につき1つのデザインとします。
- 郵便番号・住所・氏名・連絡先を、はがきの表側(作品の裏側)にご記入の上、郵送又はご持参ください。

ハガキ記入例

デザイン画
(3色まで)



デザインの説明



3. 応募締切

平成22年 7月9日(金) (当日消印有効)

4. 応募先

〒939-0066 魚津市北鬼江2-14-15 道下公民館内
道下地区振興協議会 宛

5. 注意事項

- 応募作品は、自作の未発表作品に限ります。
- 応募作品は返却しません。
- 採用させていただいたデザイン案は、必要に応じて、道下地区振興協議会が修正出来るものとします。
- 採用作品の著作権は道下地区振興協議会に帰属します。

6. 選考方法

道下地区振興協議会役員及び評議 道下公民館(9時~17時)
員にて、最優秀を1点選考します。 電話:22-2285

7. 問い合わせ先

道下地区振興協議会

会長 大崎 勇 公民館長	副会長 大崎 悟 区長(青島3区区長)	理事 慶伊敏雄 道下地区社会福祉協議会長	理事 青山芳枝 道下地区婦人会長	理事 七沢秋政 道下地区防犯組合長	理事 山本明正 道下地区老人クラブ連合会長	理事 保里昭男 道下公民館サポーター	理事 小池常男 道下地区防犯グループ代表	理事 吉崎 実 道下地区交通安全センター道下支部長	理事 山浦春美 民生児童委員協議会長	理事 山田夏子 道下体育振興会長	理事 松本明夫 小学校育成会長	理事 大崎一広 消防第11分団代表	理事 面野宗司 公民館書記	理事 米山明算 環境保健衛生協議会長	理事 松岡 貢 道下地区監事(荒磯区区長)	理事 広田 貢 道下地区監事(荒磯区区長)	理事 木下英暖 公民館主事	事務局長 谷 恵理子 ワンダフル・南の島活動ボランティア	顧問 寺崎孝洋 市議会議員	顧問 中瀬淑美 市議会議員	顧問 高村國雄 元公民館長	顧問 東城豊二 元公民館長	顧問 榎木孝司 岡田田区区長	顧問 富居陸男 岡田田区区長	顧問 竹 高弘 仏田区区長	顧問 吉田金秋 仏田区区長	顧問 田村公人 青島1区区長	顧問 加藤克則 青島2区区長	顧問 湊屋俊介 青島3区区長	顧問 寺井秀雄 青島新町区区長	顧問 川端和明 友楽区区長	顧問 浜藤 勝 北中区区長	顧問 石井利和 北新区区長	顧問 早勢雅己 下道区区長	顧問 河岸清弘 高島区区長	顧問 浦辺 弘 北鬼江1区区長	顧問 山田修一 北鬼江2区区長	顧問 大崎 隆 北鬼江3区区長	顧問 美浪 清 釈迦堂区区長	顧問 小島範文 本新区区長	顧問 金和勝明 磯路区区長	顧問 石崎 誠 小川住宅区区長	顧問 木下正子 道下住宅区区長
--------------	---------------------	----------------------	------------------	-------------------	-----------------------	--------------------	----------------------	---------------------------	--------------------	------------------	-----------------	-------------------	---------------	--------------------	-----------------------	-----------------------	---------------	------------------------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------	----------------	---------------	---------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	---------------	---------------	-----------------	-----------------

平成22年度 新体制で始動
道下地区振興協議会

道下地区の人口 (平成22年5月1日現在)

男 3,011人(-26)

女 3,186人(-1)

計 6,197人(-27)

世帯 2,242戸(±0)

※カッコ内は前号対比

道下地区の活性化と振興を、地区民で協議し、協働によって実践することを目的に、道下地区振興協議会が格的に始動しました。以前、「安全な道下地区マップ」を作成し、地域内の危険場所について再確認を促しました。次の事業として、このたび、「地区の「旗」」を作ることにしました。数多くのデザインが寄せられることを、期待しているところです。大標の若葉が空に向かって



編集後記

山本 晃正 氏
(北鬼江3区)

元氣とやまスポーツ賞
活動者部門

平成22年2月15日

受賞
おめでとうございます